

山武の

普及だより

ホームページ <https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/index.html>

山武農業事務所

山武農林業振興普及協議会

〒283-0006 千葉県東金市東新宿1-11

☎ 0475-54-0226 FAX 52-7914

# きゅうりの越冬栽培、今年も“Studying”

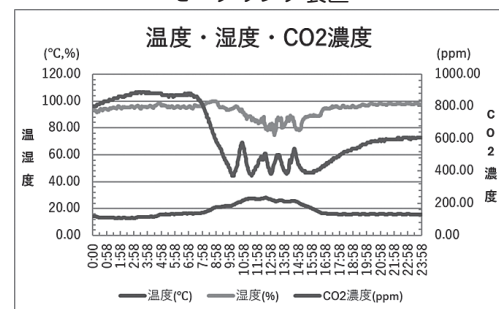
～スタディクラブの「GREED」と「波乗り99」活動支援～



グループでの全戸巡回の様子



モニタリング装置



測定された温湿度、CO2 濃度データ

九十九里町やその近隣市町では、越冬栽培を中心にきゅうりの周年出荷が行われています。しかし、近年は生産者数や栽培面積が減少しており、こうした状況を打開すべく、環境制御技術を導入し、出荷量増加を目指す生産者が増加しつつあります。収量向上につながるには、分析と経験が求められます。そこで、データに基づいた栽培管理による収量増加を目標とし、若手生産者5名を中心として平成28年に「GREED」が結成されました。また、その4年後には、ベテランから若手生産者を含む5名による「波乗り99」が活動をスタートしました。

両クラブは毎年、定植後の10月に今年度の栽培概要の共有や目標の設定を行っています。今年度「GREED」では「今年は自身の環境制御を見つめ直す年」、「波乗り99」では「前年度の出荷量を超え、グループの平均収量を伸ばす年」と目標を設定しました。現在、週1回の生育調査や月1回のグループ内での全戸巡回を行い、目標達成を目指しています。

また、2つのクラブは垣根を超えた交流会も実施しています。情報交換に留まらず、チームとして切磋琢磨することで、ライバル意識が高まり、個々の出荷量向上に対する熱意が増しています。

今後、このクラブ活動から、得られた技術や知識を部会及び他の生産者に波及させることで、産地の維持・発展につなげていきます。

# トマト黄化葉巻 病対策について

近年、タバココナジラミが媒介するウイルス病「トマト黄化葉巻病」が、山武管内をはじめ千葉県内で猛威を振るっています。初期症状は、上位葉が黄化して葉巻症状となり、病勢が進むと花が形成されないか、開花しても結実せず大きな被害となります。

「トマト黄化葉巻病」の蔓延防止には、ウイルスを媒介するタバココナジラミの防除が重要です。タバココナジラミは本病に加え、「ウリ類退緑黄化病」や「スイカ退緑えそ病」等のウイルスも媒介するため、防除により他の品目を守ることもつながります。タバココナジラミを「①次作につながらない」、「②入れない」、「③増やさない」、「④外に出さない」を合言葉に「総合防除」対策を徹底しましょう。

## ①・④の対策

前作の虫を次作に持ち越さないように、作後は「密閉処理」を行い、ハウス内の植物を確実に枯らします。完全枯死後10日以上密閉維持して、ほ場にいる虫を殺しましょう。また、ほ場内や周辺に生えている雑草は虫の生息場所になるため、忘れずに除去しましょう。

## ②の対策

育苗施設及びハウスの開口部には細かい目合いの防虫ネット（0.4mm以下）を隙間なく展開しましょう。ネット展張に伴い、風通しが悪くなる可能性があるため、暑熱対策を併せて行いましょう。

## ③の対策

育苗期を含め、栽培初期から薬剤のローテーション散布により、防除を徹底しましょう。発病株は抜き取り、ハウス内での蔓延を防止しましょう。

## 秋冬ネギの

## ネダニ対策

今作は夏から秋にかけて、ネダニの被害が多く確認されました。萎凋病と被害を助長し合うと考えられており、予防を徹底する必要があります。

## ネダニによる被害の様子

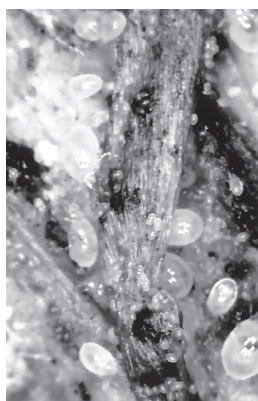
根や茎盤部が食害され、生長が止まります。

## ネダニの特徴

春から秋に多く発生しますが、不適環境でも「ヒポプス」という耐久態で生存します。

## ネダニ防除のポイント

密度を上げないよう、なるべ



ヒポプス（耐久態）

ねぎでネダニ類に登録のある主な農薬

令和8年1月1日現在

作用機 分類コード	薬剤名	希釈倍率・散布液量 ／使用量	使用方法	使用時期	使用 回数
1B	トクチオン乳剤	2000 倍 3L/m <sup>2</sup>	株元灌注	収穫 7 日前まで	3回以内
3A	フォース粒剤	9kg/10a 6~9kg/10a	作業土壌混和 株元散布	定植時 収穫 30 日前まで	1回※1 1回※1
4A	ダントツ粒剤	6kg/10a	株元散布	収穫 3 日前まで	4回以内
28	ジュリボフロアブル	200 倍 0.5L/育苗箱1箱	灌注	育苗期後半 ～定植当日	1回
16	アブロードフロアブル	500~1000 倍 1~3L/m <sup>2</sup>	株元灌注	収穫 14 日前まで	1回
30	グレーシア乳剤	2000 倍 1L/m <sup>2</sup>	株元灌注	収穫 21 日前まで	1回※2

※1 定植時までの処理と定植後の処理はそれぞれ 1 回以内。

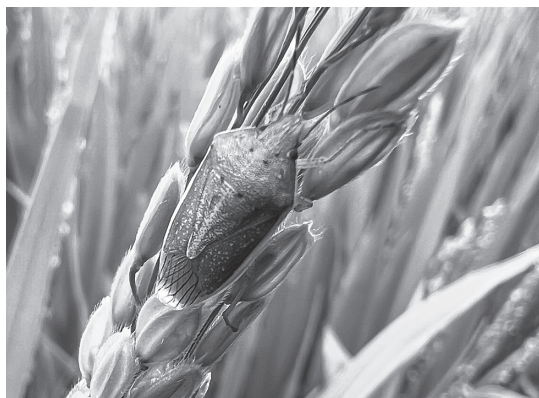
※2 株元灌注は 1 回。その他に苗浸漬は 1 回以内、散布は 2 回以内。

く連作は避け、残渣はほ場から持ち出します。また、未熟な堆肥の使用は避けるとともに、萎凋病の予防を徹底します。前年に被害があったほ場では、早めの時期から予防の薬剤防除を行います。

## カメムシ防除の タイミング

ここ数年、斑点米カメムシ類による米の被害の増加が問題となっています。主に①出穂～穂揃期、②乳熟期（出穂期から10日～14日後）にカメムシが穂を吸汁することで被害が発生します。①の時期は飛来した成虫により被害が発生し、斑点米は生じませんが、不稔や未熟粒になることで減収につながります。また、②の時期は①の時期に産み付けられた卵から孵化した幼虫や飛来した成虫により被害が発生し、斑点米ができることで等級の低下につながります。

カメムシ防除は、斑点米の発生を軽減する目的で乳熟期の1回防除が一般的に行われています。しかし、近年、「イネカメムシ」の個体数が増加傾向にあります。イネカメムシは体長12mm程度の明るい褐色の大型カメ



イネカメムシ成虫

ムシです。このカメムシは出穂期に集中的に飛来・吸汁して不稔粒を多く発生させることがあり、ひどい時は登熟期になっても穂が実らずに立ったままである「立ち穂」を発生させます。そのため、イネカメムシが多い地域では出穂期での防除の重要性が高く、出穂期と乳熟期の2回防除が必要となります。

カメムシ防除は、水稻の収量・品質を守るための重要な作業です。適切な対策により被害を最小限に抑え、安定生産を目指しましょう。

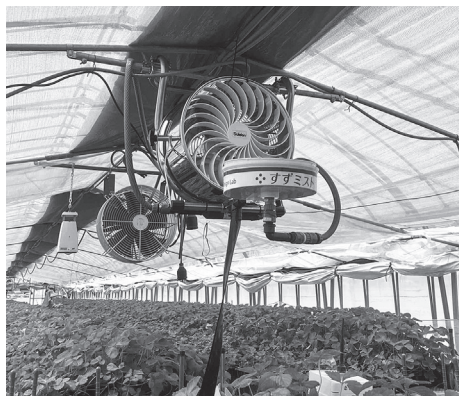
## 夏季の高温対策 について

近年、夏季の気温は上昇傾向にあり、35℃以上の猛暑日の日数が増加しています。特に施設園芸では、高温による生育障害や、作業者の熱中症などの対策が急務となっています。施設園芸における高温対策として次の取組が効果的です。

- ▽天窗や側窓を開け、循環扇によりハウス内の空気を換気する。
  - ▽ハウス屋根への遮光ネットの展張、遮熱資材の塗布。
  - ▽ハウス内の空気自体を細霧冷房・ヒートポンプで冷却する。
- 今年度、管内で取り組まれた事例を紹介します。

### イチゴの高温対策事例

イチゴの育苗期における高温対策及び花芽分化の促進を目的として、遮光ネットの展張、循環扇、エアコンの稼働に加え、



簡易細霧冷房装置

簡易細霧冷房装置（左図）循環扇の動力と水道の水圧だけで水を霧状に噴射する装置）が導入されました。育苗ハウス内の気温は、この装置の併用により、装置未導入であった昨年度と比較して日中1～2℃低下しました。この結果から植物体の健全な生育のみならず、作業者の労働環境も改善されました。

近年の夏季の異常な暑さに対しては、換気や遮光だけでは十分な効果が得られない可能性も指摘されています。複数の技術を組み合わせることで、労働環境にも配慮しつつ、農作物の安定生産を目指しましょう。

## 令和7年度認証 千葉県指導農業者士 農業者士紹介

千葉県では、優れた農業経営に加え、担い手育成や地域農業の振興に情熱を持って取り組む農業者を「指導農業者士」、また、地域の青年農業者のリーダーとして、自身の経営改善や地域農業の振興に積極的・意欲的に取り組む農業者を「農業者士」として認証しています。今年度、山武地域で認証された方々を御紹介します。今後、益々の御活躍を期待します。

### 【指導農業者士】

○菅野 環氏（東金市）



水稲専作の経営を行っています。地域でも有数の大規模経営体であり、ドローン防除やプール育苗などの省力化技

術の導入により、少ない労働力で品質を落とすことなく、効率の良い生産を行っています。

### 【農業者士】

○長谷川 智重氏（山武市）



ねぎを中心とした露地野菜の経営を行っています。

土壌に関する知識が深く、土壌分析や土質調査などの結果から、土壌に合わせた土づくりや栽培管理を行い、収量・品質の向上、肥料農薬費の削減を図っています。

○緑川 剛氏（山武市）



いちごの観光農園及び直売所を営んでいます。農

園では複数品種の栽培やイートインスペースの設置、通路幅を広くするなど環境を整備し、お客様にまた来たいと思ってもらえるいちご農園を目指しています。

## 農業経営体育成セミナーの 受講生を募集します!!

農業事務所では、新規就農者（親元就農・新規参入等）を対象とした「農業経営体育成セミナー」を開催しています。

農業経営体育成セミナーは、農業経営に必要な技術・経営知識の習得と仲間づくりを目的に、3年間のコースで実施しています。

講義や実習のほか、先進的な農業者への視察、指導農業者や農業者等の地域の先輩農業者との交流会、青年農業者会議（千葉県全域の新規就農者が集まり、発表や意見交換を行う場）への参加、セミナー生相互の訪問など、実践的かつ多彩な研修カリキュラムを用意しています。

1年目の基本研修では、土壌肥料、病虫害防除、農作業機械の講習等を行います。2年目の専門研修では、より専門的な講習のほか、プロジェクト学習と

して、自身の経営の課題解決に取り組みます。3年目の総合研修では、経営をテーマとした講義や視察のほか、今後の営農計画を作成します。

令和7年度は全体で44名が受講しています。令和8年度（5月開講予定）からの受講者を募集中です。新規に就農された原則49歳以下の方が対象です。興味のある方は、改良普及課（TEL）0475（54）0226までお問い合わせください。



セミナーの様子